

令和3年度 第3回地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会 議事要旨

日時：令和4年1月14日（金）09：30～12：00

場所：中央合同庁舎4号館12F 1214特別大会議室

1. 議事

(1) 地方公共団体Aの評価について

- ・現地評価に関する所感の共有及び質疑後に面接評価を行い、それを踏まえた委員の意見交換を行った。委員の主な意見は次のとおり。
- ・研究とビジネス化は違ったフェーズであり、研究の出口としてのどうやって自立したビジネスにつなげていくかが気になっている。
- ・地元事業者も関与すると表明されたので、少し安心はした。それがどの程度ビジネスの創出につながるかは見守り、働きかけを行う必要があるのではないかと考える。
- ・全般的に良くまとまってきて、これならば実際に実行できると考える。参画機関の連携が比較的しっかりできているように見えた。
- ・地元事業者が当該地域と危機感を共有していることは、非常に重要なポイントではないかと考える。
- ・地域の特性を活かして、今回のテーマにおける世界的に新しいモデルになるかもしれないと期待を持った。事業責任者、首長、学長の本気度が確認できた。
- ・流通やマーケティング、ブランディングの対応については課題があると考えます。
- ・本気度については合格点を与えたいし、取組も具体化している。学長と首長の本気度がかなりある。事業責任者も実績があり、シナジーができればと思う。
- ・当該産業でこの国をリードするような大学づくりを目指してほしいと考える。
- ・当該地域として、このテーマだけで全体の雇用を増やせるかは不明確。首長が本気であることは確認できたので、いろいろ助言できたらと考える。
- ・当該地域は大きな企業がない代わりに、小規模な地元事業者も取り込んでいるが実際にどの程度事業に関わるのかという点が気になる。
- ・テーマの産業は高齢化していて従来型。大学の若手人材とその産業の若手人材とでは文化的なところも含めて相当乖離があり、それをつなぐシステムは高専のようなものが産業側にもあるとスマートに動いていく可能性があるのではないかと考える。
- ・人口流出による危機的な状況を当該地域と大学が十分共有していただいて、採択する方向で進めるのがよいと考えた。鍵になるのは人材だと考える。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体Aの申請は、評価委員会において採択と評価された。

(2) 今後の事業運営に関する報告について

- ・事務局より、今後の事業運営に関する報告を行った。委員より特段のコメントはなかった。

以上